

開催日時：平成17年6月22日（水） 16:00～19:20

場 所：ドーンセンター 5階 特別会議室

出席委員：池淵委員長、高橋委員、中川委員、増田委員、山下委員、弘本委員、堀野委員

1. 議 題

(1) 前回議事要旨確認

(2) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画 治水手法について

2. 概 要

・ 一級河川淀川水系神崎川ブロック及河川整備計画 治水手法について

一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画の治水手法の説明に対して委員会より以下のような意見、指摘事項があった。意見、指摘事項に対して、今回は、治水手法毎の環境等への影響を整理し、審議することとなった。

(委 員) 今回以降、議事概要については、早期に作成し委員確認すること

(委 員) 資料の中で 1/150 の計画河床という表現が出てくるが、今回の神崎川整備計画での基本方針は 1/100 として進めているはず。

(事務局) 神崎川の整備計画策定の方針としては、1/100 を目指して検討している。神崎川本川の計画河床については、審議中である治水手法の選択により異なってくる。資料の中で 1/150 の計画河床というのは、あくまで工事実施基本計画を参考として示したもの。

(委 員) 猪名川合流後の神崎川下流が国の策定する基本方針で 1/200 となるのなら、河床の連続性を配慮して将来の河床を検討する必要もある。

(委 員) 資料中の浸水想定図の説明で1/100規模の降雨を想定したものとあったが、どんな降雨をどういう条件で検討したものを表示しておくこと。

(事務局) 浸水想定図は1/100モデル降雨を対象に、現在の整備状況のもとに計算したもの。内水域は下水道ポンプ能力での排水としている。資料にも追記する。

(委 員) 計画対象降雨の3～4時間雨量でのチェックについて、いくつかの確率統計処理方法での1/100確率の誤差幅を示しているが、併せて、それぞれの確率図を添付してほしい。

(事務局) 添付する。

(委 員) モデル降雨について、基本となる高水のピーク流量にも影響しないのなら、特に計画対象として必要ないのではないか。

(事務局) 資料にも示した通り、大阪府としては、1時間に80mm規模の集中豪雨が生じた場合でも、安全を確保することを目指しており、また近年の降雨状況を見ると実際に起こり得る降雨規模であることから、計画の対象としたい。ただし、3～4時間雨量については、実績降雨の引き伸ばし降雨と同様にチェックしている。

(委員) 内水対策の考え方について、1/10以上の降雨に対しては内水浸水を許容しろということは、理屈では分かるが、実際に頻繁に浸水に悩まされている住民に対する説明として納得してもらえるか。

(委員) 下水道整備と河川整備の進捗によって、内水域の治水安全度がどう向上するかの検証しておく必要がある。

(事務局) 下水道も、河川と同様、まだまだ整備の途上にあることから、浸水が発生している。下水道整備の目標は1/10確率(1時間雨量が50mm～60mm程度)であるが、下水道での排水は数十分単位の短時間雨量を対象にすることから、実際の施設整備の能力は高い。河川の下水道受け入れ能力の整備と、下水道の施設整備が進めば、一定規模の降雨に対しても被害解消が可能と考える。内水域の安全度の検証については工夫して示すようにしたい。

(委員) 流域対応について、将来の人口減少時には、郊外に広がった宅地の一部を森林に戻すなどの取組も検討していく必要があるのではないか。

(委員) 流域対応を行うことで河川に与える効果を示せないか。

(事務局) 安威川ダム上流の碎石場では、将来緑化復旧を条件としている例もある。確かに全国的には人口減少が予想されているが、地方から都市部への人口流入の可能性も想定できる。

(委員) 代替案の中で河道改修案は、下流の神崎川へ非常に大きな影響を与える。代替案として成立するものなのか

(事務局) 平成15年の建設事業評価委員会で示した、代表的な治水手法での比較をしたものであるが、下流への影響に加え効果発現時期からも河道改修案は現実的でない。同様に放水路案、遊水地案でも治水効果発現時期を考えると、河川管理者として選択できない。

(委員) 治水対策として、河川管理者がダム案を選択するという考え方については頷けるが、河川整備委員会は利水・環境も含めた河川全体の審議を行うものであり、利水の方向性や環境への影響、正常流量確保の考え方等を示してもらって、総合的に考えたい。

(事務局) 利水はこの夏頃方向性が示される予定。ダムの環境への影響とその軽減方策については、別途委員会でも検討を行っているので、その状況を示す。その他の代替案についての環境面への影響も補足説明したい。